北部）から到達したときの測定で，核数は日日変動した．この期間中，活発な火山活動は報告されていないので，火山活動と核数との関係（磯野ほか，1959）を考察する必要はない．風向が西寄りのとき，核数が1.8l^{-1}から12.7l^{-1}の範囲を変動している原因として，測定点の風上に核の発生源を想定してみたが4日のような型（第8図）が何回か測定されないと，風上に氷晶核の発生源があると断定できない．1回の測定値が大きいという点では他の場合にも測定されているからである．

5. 謝辞

おわりに，種種の指導と助言とを与えられた磯野謙治教授（現在　名古屋大学勤務）および気象研究所の丸山晴久氏（昭和47年4月歿）に心からお礼を申上げるとともに，測定に協力された当大学の阿部健蔵氏に感謝の意を表する次第である．なお，風向・風速などの資料は室蘭地方気象台から，850mb 面の天気図の資料は札幌管区気象台の御世話になったので，ここに御礼申上げます．

文献

1) Isono, K., Komabayasi, M., and A. Ono, 1959: The nature and the origin of ice nuclei in the atomosphere. J. Meteor. Soc. Japan, **37**, 211-233.
2) 気象庁，1963：気象要覧，第758号，39-40.
3) 丸山晴久，1962：大気中の氷晶核とその測定法．気象研究ノート，**77**，19-27.
4) 根本，高橋，相馬，工藤，1957：東京の地上附近における自然大気中の氷晶核の観測並に富士山頂における沃化銀粒子発煙実験の影響について．気象集誌，Ser II, **35**, 139-149.
5) 大竹　武，1963：工場起源の人工氷晶核．日本気象学会昭和38年春季大会．
6) Soulage, G., 1959: Hauts pouvoirs glaçogènes dus a la concentration de fumées sidérurgiques au-dessus de l'océan. Ann. Géophys., **15**, 461-481.
7) Telford, J.W., 1960: Freezing nuclei from industrial processes. J. Met., **6**, 676-679.

編集だより

本誌も発刊後20年を経過し，本号から21巻を刊行することになりました．この機会に表紙のデザインを一新し，会員の御協力によって，内容を一層充実したいと考えております．

なお，昨年実施した本誌についてのアンケートの調査の結果を考慮して，次のような新企画を順次実施することにいたしました．

(1) 解説：アンケートでももっともよく読まれている分野なので，より幅広い内容で読みやすい解説を掲載したい．たとえば"世界の天気予報"のような特集や，"気象学事はじめ"のシリーズものを随時のせる．（毎号2～3篇程度）

(2) 支部だより：学会の支部活動を強化するため，本誌の地区編集委員を増員したが，これとも関連して，支部だよりを毎号一支部ずつ掲載する．

(3) 会員の広場：会員が気軽に投稿できる投書欄．学会に対する意見や，気象学の研究に対するコメントなどを通信欄と違ってもっと簡略に述べる．原稿用紙1枚程度より短いもの．

(4) 海外だより：外国で開かれた国際会議，外国の研究機関の紹介などを外国出張された会員や在外会員から紹介．

(5) 本棚：従来，書評・新刊紹介を随時掲載してきたが，より多くの情報を会員に提供するために，これらを総合して本棚欄を設ける．

なお，論文・短報・通信欄・講座・用語解説・質疑応答などは従来どうり続けます．これらの新企画を実施しても，学会の財政事情などから紙頁を増加することは困難なので，たとえば学会だよりの活字の大きさを小さくするとか，投稿規定の掲載回数を減らすなどくふうをしたいと考えています．

現在の編集委員のうち，投稿原稿の受付・整理・校正などの編集事務を担当しているのは，巽（幹事）・山田・沖政・田崎の4委員です．いずれも気象庁の業務の時間外に編集事務に携っているので，時間的に忙しくなかなか充分なこともできかねる状態です．このような事情を御賢察の上，投稿には必ず送り状（用紙本号添付）を添付して下さるようお願いします．なお送り状の用紙は，ゼロックスでコピーしたものを使っても差支えありません．

（編集委員長）